



### ◆神戸が受けた支援の恩返しをしたい



ろっこう医療生協  
塩江剛氏(左)  
豊山紀子氏(右)

8月以来2度目の参加となる主任介護支援専門員の塩江剛さんと、阪神・淡路大震災では約4カ月の避難所生活を経験した看護師の豊山紀子さん。

「何かできないかと悶々としていたとき、この活動の話が持ち上がりました。私自身は被災していませんが、神戸に住む者として受けた支援に対する恩返しもしたかった」(塩江さん)。「被災された方が涙ながらに話されるのを実際に見ると、やはり辛い気持ちになります」

(豊山さん)。お二人が神戸から来たことを知った被災された方が「あの時は大変でしたね。(長田区で)大きな火事が起きて…」と気遣いの言葉をかけられる場面も。

ろっこう医療生協からはこれまで延べ20人以上の職員が岩手を訪れており、年内は支援を継続する予定とのことです。

## 大船渡市の“巡回訪問活動”を継続支援

～被災の痛み知る神戸・ろっこう医療生協が岩手で活動～



仮設住宅の集会所での「お茶っご会」に集まった方々の血圧を計測する豊山さん(写真中央)。

岩手県大船渡市では、仮設住宅の建設や市による住宅の借り上げが進んだ5月より、被災者の避難所からの移りが始まり、8月中旬までにほとんどの方が仮設住宅などへ移り住みました。現在、1,801戸の仮設住宅と585戸の借り上げ住宅、約100戸の公営住宅、その他企業が準備した社宅などで生活を送っています。

そこで重要となっているのが「新しい場所で暮らす被災者の地域社会からの孤立の防止」です。市では、被災された方々の入居先を巡回訪問し「健康調査票」の配布回収を通じた健康状態の確認やコミュニケーションに努めています。

ろっこう医療生協では、7月よりこの巡回訪問活動に参加しています。きっかけは、同生協灘診療所の医師である千葉誠さんが、震災直後より被災地支援を行ってきたという“縁”と、「阪神・淡路大震災からの復興を果たした方々に、支援を通じ大船渡を勇気付けてほしい」という地元の医療関係者からの声でした。看護師1人とケアワーカーなど事務系職員1人の計2人を1週間交代で岩手に送り、全国の自治体や県内の多岐に渡る専門性を持つメンバーで構成される支援チームに参加、活動しています。



被災されたお宅を一軒一軒訪問していく。

### 心のケアは緊急課題

巡回訪問では、「港には、心臓がドキドキして近付けない」「食欲が無くなり、7キロ痩せた」といった声が多く聞かれ、心のケアの必要性が強く感じられます。日々診療に取り組む千葉医師も「ここまで気丈に頑張ってきた人が、心のバランスを崩すケースが目立つ」と述べています。そうした方々を見つけ出し、受診を促す機会となる巡回訪問の役割は、いっそう重要なものになりつつあります。

◆リレー寄稿  
～震災半年を過ぎて



いばらきコープ生活協同組合  
理事長 佐藤 洋一氏

全国の生協の皆さんのご支援に深く感謝いたします。いばらきコープでは6月の総代会で「東日本大震災からの復興と支援に関する特別決議」を採択しました。決議では「被災者支援、生産者応援、暮らし方の見直し、生協の輪を広げる」という4つの取り組みを通して復興支援を進めていくことを確認しました。これを受け、募金や災害ボランティアへの協力、県内外の生産者やメーカーへの応援メッセージのお届け、節電など、多くの組合員の皆さんにご参加いただきながら、一つひとつ取り組みを進めてきました。また、不安の声が多い放射能問題については、正しく理解していただくための学習会を各地で進めています。

これからも震災で実感できた「助け合い、支え合い、分かち合い」の気持ちを大切にしながら、地域の皆さんのお役に立てるように努力してまいります。

## コープふくしま・放射線に関する講演会開催

9月29日、コープふくしまでは、放射線に関する講演会を行いました。午前の部は郡山さんかくプラザ（郡山市）、午後の部は橘地域公民館（郡山市）で、それぞれ2時間ずつ開催され、合わせて約300人の組合員の参加がありました。この講演は、「前向きになる一助になれば」と企画されたもので、講師には放射線医学研究所に勤務していた農学博士の白石久二雄氏を迎えました。



参加した組合員へ説明する白石久二雄氏。

白石氏は講演で、放射性セシウムの性質等に関する説明を行ない、参加した組合員は熱心にメモをとっていました。

最後に会場でアンケートを実施したところ、多くの組合員より講演会の感想が寄せられ、「とても参考になりました。小さい子どもがいるので（今日学んだことを）実践して行きたいです」「又新しい知識が増えました。長い闘いになると思いますがふるさと福島で生きていきます」「これを機会に生活のあり方を考え、生協さんを信じて力にしていきたいと感じています」「汚染ばかりに気持ちが傾きめいっていましたが、免疫を高める勉強をして笑い合える生活を心掛けようと思いました」「このような講座を待っていました。コープさんの企画に感謝いたしております」などといった声が挙がっていました。

## 仙台白菜を復興のシンボルに



丁寧に苗が植えられた。



苗は宮城県農業高校の生徒によって育てられた。

みやぎ生協では、生産者と食品関連業者が連携し地域の復興を目指す「食のみやぎ復興ネットワーク」の活動に取り組んでいます。この一環として、9月11日に名取市の畑に3,000株を超える仙台白菜の苗が植えられました。仙台白菜は、伝統野菜としてその価値が見直されており、比較的塩害に強いことから復興のシンボルとして取り上げることが決まりました。今回植えた苗を育てたのは、宮城県農業高校（名取市）の生徒たちです。生徒たちは避難先である亘理高校で苗を育ててきました。この日は宮城県農業高校に加え、明成学園高校（仙台市）の生徒・教師21人が、地元のJA職員や食品メーカーの社員などと一緒に、定植（トレーで育てた苗を畑に植える作業）を行いました。明成学園高校の高橋教諭は、「仙台白菜が生まれた100年前の歴史をひもときながらこれからの100年を積む思いで育てていきたい」と意気込みを語ってくださいました。

## ◆共助の大切さ実感 ～ボランティアコーディネーター活動



コープネット事業連合  
中村 仁 氏

7月中旬と9月下旬に、岩手県宮古市生活復興支援センター（旧宮古市災害V.C）にて、災害ボランティアコーディネーターとして活動しました。主に被災者及び行政からの依頼に基づき、現地調査や必要資材の準備、ボランティアの配置や活動場所への送迎等を行ないました。

「泥出し」から「生活復興支援」へとニーズも変わってきていますが、全国からいらっしゃったボランティアとの関わりの中で、「共助」という言葉の大切さをあらためて感じました。ボランティアの想いが復興に向けた一歩一歩につながったことは明らかだと思えます。震災以前の生活を取り戻すべく奮闘する中で、地域の方々による「支え合い」や「結びつき」が生まれているように感じます。今後の復興は皆さんの主体的な関わりにより成し得るものであり、ボランティアの長期的な活動が求められるのではないのでしょうか。

## 「こ～ぷのお家いしのまき」で「金魚すくい大会」

10月4日、大和郡山ロータリークラブ（奈良県）のメンバー5人がこ～ぷのお家いしのまき（※1）を訪れ、「金魚すくい大会 in 石巻」を開催しました。同クラブは地域の特産である金魚を活用し、高齢者のための金魚すくい体験活動に取り組んでいます。被災地のために何かしたいと考えていたところ、地元の「協同福祉会」（※2）を通じて、こ～ぷのお家いしのまきにつながりことができました。「この大会が少しでも被災地の方々の癒しになれば」とロータリークラブ会長の尾崎勝彦さん。会場となった地域交流サロンは、こ～ぷのお家いしのまきが地域のコミュニケーションのために設けた場所。午前中は、近隣住民50人ほどが集まり、金魚すくいに興じました。子どもはもちろん、大人にも大好評。会場のあちらこちらで歓声が上がっていました。

※1：みやぎ生協の福祉活動から発展・誕生した社会福祉法人こ～ぷ福祉会の施設。

※2：ならコープを母体とした社会福祉法人。



子どもも大人も金魚すくいに熱中。

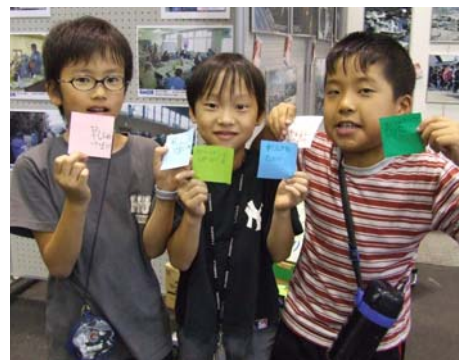


抹茶のお茶席も設けられた。

## おかやまコープ・食のイベントで被災地支援コーナー設置



多くの人でにぎわう被災地支援コーナー。



「(被災地への)メッセージ、書きました！」

10月1日、コンベックス岡山（岡山市）にて、おかやまコープ主催「ハッピーフードパーク2011」が開催され、1万8,000人が訪れました。この取り組みは、組合員・職員と生産者やメーカーの方々が交流する食のイベントとして毎年開催されているものです。今年は、東日本大震災被災地支援コーナーが設置され、被災されたメーカーでおかやまコープと取引のある(株)シーサット、千倉水産加工販売(株)、(株)アマタケ、全国農協食品(株)が出展しました。8月30日から9月1日にはおかやまコープの平田昌三専務理事や職員が被災地のお見舞い訪問を行ない、組合員からのビデオレター等を届けました。当日は試食コーナーも登場し、多くの人でにぎわっていました。またいわて生協の商品や被災地メーカーの商品を集めた販売ブース、震災活動報告のブースも設置され、パネル展示コーナーや被災地の方へのメッセージを書き込むコーナーなどにも、多くの方が訪れました。

◆いわて・復興願う  
生協まつり

いわて生協では、各地で「生協まつり」を開催しました。(右一覽参照)。被災されたメーカーや地元団体なども参加、たくさんの方が10月の休日を満喫していました。

【けせんコープ生協まつり】



①おばちゃん手芸部：仮設住宅の「おばちゃん手芸部」による展示即売会も大人気でした。



②ちびっ子縁日：多くの子どもたちがくじ引きなどを楽しみました。

【釜石コープ生協まつり】



①おおちゃん人形：仮設住宅の皆さんが軍手で手作りした大槌町のご当地キャラクター人形も人気。



②盛りだくさんの企画：地元の団体・高校生の芸能発表や、おじゃる丸ショーなどに多くの観客が訪れました。

<復興関連情報一覽>

【岩手県】

いわて生協

●各地で生協まつり開催くけせんコープ(10/1)、釜石・にのへ・花巻コープ(10/2)、久慈コープ(10/8)、花巻コープ・遠野産業まつり(10/15、16)左欄参照>●宮古産業まつり&地産地消フェスタ(10/1、2)●復興支援 地産地消フェスタ(10/8、9、コープー関コルザ)●岩手三陸復興支援LIVE(10/10、主催は宮古市魚市場・仲買人青年部・ワカシの会、後援はマリンコープDORA)●“がんばろう！岩手”マーク入りどら焼きの「売上金1個につき1円」を義援金にする期間を2012年3月20日まで延長●灯油利用拡大キャンペーン(10/11~11/30、灯油用ポリ缶2缶と給油ポンプ1個を無償提供)●盛岡西コープ・サンサン青山ふれあい祭り(10/22)●盛南コープ・矢巾町産業まつり(10/29、30)●田老町漁協のみなさんを励ます会(10/22)●ボランティアバス継続実施●仮設住宅への食器無償提供

【宮城県】

みやぎ生協

●「食のみやぎ復興ネットワーク」各プロジェクト本格始動●外部講師による放射能学習会開催(10/11から5回)●ふれあい喫茶とオープンカフェ(9/24~10/7、15会場)●コープこうべ・絆メッセージ(10/3~)●ふれあい喫茶(10/3~東松島グリーンタウンやもと、コープネット主催)●被災メンバーとの懇談会(10月末まで)●生産者と協同で放射線量の自主的モニタリング開始(9月~)●高齢者金魚すくい大会開催(10/4、こーぷ福祉会こ〜ぷのお家いしのみまき地域交流サロン、主催は奈良県大和郡山ロータリークラブ)●仮設住宅へのサツマイモ宅配

【福島県】

コープふくしま

●ガラスバッジ(放射線積算線量計)の測定結果に関する説明会(10/6福島市・こらっせ福島、10/17郡山市・大成地域公民館)●除染ボランティア(10/16伊達市・旧伊達町商店街)

【各県連等】

●福島県生協連／有機農業者と懇談(10/1)、相馬原釜漁協と懇談(10/3)、第2回東電損害賠償説明会開催(10/4)、協同組合学会神戸大会(10/15)、復興マルシェ(10/22、23)、チェルノブイリ原発視察(10/31~11/7)  
●茨城県生協連／放射能学習会(10/13、31、つくば市)、第一回食の安心・安全を考えるセミナー(10/19、共催JAグループ茨城・生協県連、漁連、森連)、ボランティア入門講座(10/20、共催NPOセンターコモンズ・県社協・県連)  
●パルシステム連合会／畑の楽校・サツマイモ収穫、女川地区への炊き出し支援(10/15、22)、のんびる読者による被災地へのひざ掛け送付(10月)

◎生協の震災復興支援の取り組み情報募集!!

皆様の地域での生協の復興支援に関する取り組み情報を、お寄せ下さい。  
情報提供用専用メールアドレス action@coop-book.jp



つながろう CO・OPアクション情報  
(隔週水曜日発行・次回10月26日発行予定)

発行 日本生活協同組合連合会(会員支援本部出版部)  
〒150-8913 東京都渋谷区渋谷3-29-8 コーププラザ11F  
Tel: 03-5778-8183/Fax: 03-5778-8051  
action@coop-book.jp